

盛岡信用金庫の環境への取組みについて

【「再生可能エネルギー事業」を通じた地域活性化への支援】

再生可能エネルギーを活用した事業を継続的に推進・支援することで、「地産地消方式」の環境ビジネスの確立に取り組んでいます。

自治体等への提案を行い地域内で得たエネルギーを地域内で消費し、エネルギー代として地域外へ流出していた資金を地域内で循環させていくエネルギー版「地産地消方式」を積極的に促進しています。これにより、新たなビジネス・雇用を創造するとともに地域の活性化を目指しています。

なお、紫波中央駅前の再開発（オガールプロジェクト）において、紫波町役場、商業施設、宿泊施設、住宅へ木質バイオマスを利用した地域熱供給事業を支援しました。また、森林整備を行い、生じた間伐材は地域の公共温泉施設等でチップボイラーの燃料として使用されています。

当金庫は、この取組みを「SDGs宣言」目標4・7・11・13・15・17に基づく地域貢献活動として位置づけています。



【紫波企業の森づくり「もりしん共存同栄の森」森林環境保全活動について】

森林を整備し、水源涵養など森林の公益的機能の向上を目的として、平成23年11月、紫波町・特定非営利活動法人 紫波みらい研究所・地権者15名と「紫波企業の森づくり」活動の協定を締結しました。

本活動は、紫波町における燃料供給態勢確立へ向けての支援事業の一環として、平成24年から令和8年までの15年間にわたり実施します。

森林整備を通じ、二酸化炭素吸収、水源涵養、土砂流出防止等の他、間伐によってできた木材は、木質チップとして再資源化することにより地域内のエネルギーとして活用されています。

これまでに、延べ913人の役職員が約5.6haの面積を整備し、約55tの二酸化炭素吸収に寄与しました。

第12回目となる令和5年度の活動は、新入職員他を対象としてこれまでの経緯説明の他、ラ・フランス温泉館の再生可能エネルギー設備の見学、「令和の森」育樹作業とクヌギの苗木10本を植樹しました。

当金庫は、この活動を「SDG s 宣言」目標4・7・11・13・15・17に基づく地域貢献活動と位置づけ取組んでいます。

